

辺野古通信

第53号 2016年8月31日



生活道路である県道を封鎖する機動隊(8/24 高江)



工事車両を護衛する機動隊(8/24 高江)

発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

高江へリパッド建設、辺野古陸上部工事再開を許すな!

■7/10 投開票の参院選挙は、「オール沖縄」伊波洋一候補(元宜野湾市長)が、政権与党が全面支援した現職閣僚・島尻安伊子沖縄担当相を106400票の大差で下し圧勝した。衆参含めて沖縄選挙区から政権与党の国会議員がひとりもいなくなった。■ゆるぎない沖縄の民意が示された参院選直後の7/11早朝から、高江のオスプレイパッド建設再開に向けた動きが見られた。沖縄の民意は踏み潰して、何が何でも日米の軍事植民地として恒久化しようというのか。■7/21 那覇から車で3時間もかかる高江の地に過去最大規模の1600人が駆けつけ、安倍政権の無法ぶりに怒りを燃やした。同日、県議会で初の高江へリパッド建設中止を求める決議が採択された。その翌日、人口150人の高江の集落にヤマトの都府県警から500人、沖縄県警300人など1000人規模の機動隊、防衛局職員、警備員が押し寄せた。驚くべきことに、ここに投入された防衛局職員の中に元米兵による女性殺害事件を受けて政府が発足させた「地域防犯パトロール隊」として沖縄に配置された防衛局職員70人が含まれていた! ■7/22、沖縄の地元紙が発行した2種類の号外には、「国、へリパッド着工」「政府、県を提訴」の見出しが踊った。高江のオスプレイ着陸帯の2年ぶりの工事再開と、

国が沖縄県を高裁に訴えた違法確認訴訟だ。地元紙はこれを政府の「二正面作戦」、また3月の和解で中断している辺野古陸上部の作業再開も加えて「三正面作戦」と安倍政権の強硬姿勢を批判している。沖縄の声には聞く耳を持たぬ傲慢極まりない態度であり、3/4の高裁の和解勧告や6/17の国地方係争委員会の審査結果の趣旨にも反する。■工事の遅れに危機感を募らせる日米両政府は、民主主義や法治国家の建前もかなぐり捨てて沖縄に襲いかかっている。生活道路である県道70号線を作業車両が通過するたびに封鎖し、N1地区の国有林を無断で伐採している。もはやこれ以上の工事の遅れを許されない安倍政権は、なりふり構わぬ強硬策・弾圧策を進めている。辺野古でも9/16の違法確認訴訟高裁判決後に陸上部の作業再開を狙っている。逆に言えば、工事を遅らせることで決定的な打撃を与えることができるということだ。8/19には高江に500人が集まり工事車両を止めた。人が集まれば機動隊も動けない。毎週水曜と土曜日の高江早朝行動(6時集合)が提起されている。これから年内が山場。ヤマトから辺野古・高江に駆けつけよう! ■辺野古・高江カンパは累計1,931,289円(8月28日現在)。引続きカンパを! 郵振00210-0-2021 沖縄連続講座

日米安保は沖縄で起きている! 9.30 横浜講演集会へ

9月30日(金)18時半から

- 語り手: 新垣 毅さん(琉球新報東京支社)
- 横浜市開港記念会館1号
(みなとみらい線日本大通駅1番出1分、JR関内駅南口10分)
- 資料代500円
- 主催 島ぐるみ会議と神奈川を結び会/基地撤去をめざす県央共闘会議



防衛局はなぜ高江の工事を急ぐ？

日米両政府は、高江のヘリパッド建設を急いでいる。主な理由は二つ考えられる。一つは辺野古の埋立て工事が中断を余儀なくされているので、高江で成果を示す必要があること。工事が進められないノグチゲラ等の営巣期間（3月～6月）が終わるのを防衛省は待ちかねていた。もう一つは、米国の大統領選が11月にあり、新大統領就任時（来年1月）には、少なくとも高江の問題を決着させておきたいこと。辺野古の埋立てをめぐる法廷闘争もこの時までには決着させて本格工事に着手し新大統領に政策変更の余地を与えないことも狙いの中にはあるだろう。

「北部訓練場過半の返還＝負担軽減」のまやかし

高江のヘリパッド問題の発端は1996年12月のSACO最終報告に遡る。北部訓練場の51%3,987畝を返還する条件として、返還予定地にある7基のヘリパッドを移設して6基に集約させる（既設15基と合わせ21基となる）とされた。「1072年以来最大の返還」（ニコルソン米軍四軍調整官）をアピールできる。「沖縄の負担軽減」の代表事例として日米両政府は宣伝した。

しかし米軍の狙いは、不要な土地の返還の見返りに海兵隊MV22オスプレイの訓練設備と区域を新たに確保することにあった。既に使い物にならないと言われる返還予定区域にある7基を移設して6基に集約するというが、新たに建設される6基のヘリパッドは高江の集落を囲むように設置され、オスプレイを利用した上陸訓練用に宇嘉川河口部が新たな訓練区域に追加された。那覇防衛施設局（当時）が2007年にまとめた環境アセス図書



では、オスプレイの訓練施設であることを（米軍は明言しているにもかかわらず）明確に否定。また新たなヘリパッド設置場所周辺にノグチゲラの巣穴35個など貴重な動植物の存在が確認されているにもかかわらず、米軍が運用上の都合を優先して設置場所が決まった経緯が記されていた。

狙いは機能強化と北部海兵隊施設の一体的運用

「負担軽減」の宣伝文句とは裏腹に、世界唯一のジャングル戦闘訓練施設としての北部訓練場の機能強化、オスプレイ運用を前提にした、キャンプハンセン・シュワブ・伊江島補助飛行場の北部海兵隊施設の一体的運用にその狙いがあったのだ。米海兵隊の報告書「戦略展望2025」は「最大で51%もの使用不可能な北部訓練場を日本政府に返還し、新たな訓練場の新設などで土地の最大限の活用が可能になる」とその狙いを隠さない。その意味では、老朽化した普天間飛行場の返還の見返りに辺野古に新たな巨大軍事拠点を築こうという辺野古新基地建設と高江のヘリパッド新設問題は、根っこは同じだ。

ヤマトの機動隊500人が人口150人の集落にひしめく～高江レポート

8/21の夜に沖縄入りし、8/22から8/24の3日間、東村高江のオスプレイパッド建設反対闘争に参加した。全国6都府県から集められた500人の機動隊は、沖縄の人々にとっては、琉球処分官・松田道之が約600人の兵隊・警官隊を引き連れて琉球王国を武力併合した歴史を想起させる。しかし現場には笑いとは怒りはあるが悲壮感はない。以下に3日間の高江の闘いをレポート（抄録）する。

8月22日（月）

朝、辺野古のゲート前テントに立ち寄り、10時過ぎに高江に到着。県道70号線を北上し、すでに2基のヘリパッドが完成しオスプレイの離発着訓練が激しいN4地区ゲート前を通過、高江橋手前で機動隊が県道を封鎖中。高江橋はN1ゲートと北部訓練場正面ゲートの間にある。碎石を積載したダンプは採石場から正面ゲート内に集結し、機動隊に守られて高江橋を通り、2基のへ



県道70号を埋め尽くす機動隊（8/24）

リパッド建設が予定されている N1 地区表ゲートから搬入する。県道封鎖の法的根拠を問い質しても答えない。不法不当な県道封鎖から 45 分、27 台の車が立ち往生。農作業で畑に向かう高江住民の軽トラックも営業車も止められる。座込み参加者への飲料水を持ってきた人が飲料水を路上に積み上げ「県民に水を運ばせろ」と猛抗議、11 時半過ぎ封鎖解除。高江橋に到着すると、山城博治さんが報告中。山城さんによると、早朝 6 時過ぎに集まったのは 100 人車 100 台に満たなかったが、高江橋に車を並べて阻止線を張った。9 時 40 分過ぎに機動隊が車列と座込みに襲いかかり、約 1 時間半位の攻防で午前中はほぼ工事車両を止めた。「これが 200 人車両 200 台になれば機動隊は動けない。週 1、2 回、工事を止める大行動を取り組みたい」大きな拍手。逮捕者は出なかったが、激しい攻防で 2 名が緊急搬送。辺野古の座込みでお馴染みの島袋文子さん(87)が右手小指を負傷。行動を見守った弁護士の報告では、この日は機動隊が報道関係者を排除することはなかった。これは 7/20 に報道関係者を機動隊が暴力的に排除したことに、琉球新報と沖縄タイムスが社説で猛抗議したことが影響している。

8月23日(火)

高江橋に早朝 6 時過ぎに到着。車 50~60 台 80 人ほど。山城博治さんが音頭をとり「座り込み」「沖縄の未来は沖縄が拓く」を全員で合唱。道路に車を並べて橋を埋めダンプを待ち構えた。昨日の攻防で指を五針縫う怪我をした島袋文子さん(87)が車椅子で登場、拍手で迎えらる。周りは「きょうは休んで」と引き留めたが本人の固い意思で来た、と。



機動隊が動き出すと、車椅子で警察車両の前に立ち塞がる(写真上)。9 時に西海岸国道 58 号を北回りでダンプ 10 台移動中の情報が入る。高江橋を避けて北側から直接 N1 表ゲートに搬入しようという動きだ。山城さんの合図で高江橋から全車移動を開始するも N1 表ゲート手前で、警視庁機動隊によってまたまた不法不当な県道封鎖。山城さん先頭に猛抗議。30 人ほどが車から降りて N1 表ゲートに向かう。10 時半過ぎにようやく前進できたかと思ったら、またゲート手前で不当検問。昨日は橋の上の激しい攻防で 11 時過ぎまで搬入を遅らせたが、きょうはダンプに山越えをする北回りをさせた結果、昨日と同じくらい工事車両を遅らせている。この日は

昼過ぎからも 10 台搬入され、合計 20 台分となり、一日の搬入台数としては最多となった。

8月24日(水)

きょうは N1 表ゲート前に早朝 6 時半集合。約 50 人、南北に別れゲートに入る作業員と車両を待ち受ける。7 時過ぎから N1 表ゲート前で集会が始まった。県議会議員や名護市をはじめとした市町村議員の挨拶と決意表明が続く。辺野古のキャンプシュワブゲート前の「水曜行動」で県議団や市町村議員が座り込んでいたが、高江でもこの水曜行動が始まったか。沖縄では座込みの現場に現れない議員は有権者から支持されない。



ダンプ 8 台、トレーラー 4 台が動き出したとの情報あり。沖縄県警のバス 2 台と指揮車など数台が登場、警察の動きが慌ただしくなる。9 時半工事車両が接近中ということで行動開始。約 100 人でデモ行進、道路に広がり座り込み、集会開始。県議と市町村議員 10 人ほどが最前列に座込み。10 時過ぎに千葉と沖縄県警機動隊が規制を開始、押し合っている間にダンプ 10 台が強引に迫ってくる。混乱のなかでプラカードを掲げた高齢の女性が若い機動隊員に突き飛ばされ仰向けに転倒、救急車で運ばれる。11 時頃にダンプ 10 台が N1 表ゲートから搬入。午前中の行動終了後に、早朝 7 時頃の作業車両への抗議行動で不当逮捕された男性が拘留された名護警察署への抗議行動が行われた。(翌日解放)



沖縄から 25 日の朝の便で帰ったが、この日の早朝に N1 裏ゲートのテントから N1 地区に通じる道にフェンスが設置された。その後の報道によれば、N1 裏ゲートに通じる農道の使用を東村長が拒否しているため、N1 裏のテント排除もできず、また N1 から G 地区、H 地区の建設場所に通じるルートが確保できない。自衛隊の CH47 輸送ヘリを使用する検討に入った、とも伝えられる。2007 年に辺野古沖に現れた海自掃海母艦ぶんど以来の自衛隊の登場か。

8.26JFE 横浜本社要請行動展開

8/26 に、「辺野古のケーソンを作らせない三重県民の会」の呼びかけで、横浜市鶴見区内にある JFE エンジニアリング横浜本社に要請行動が行われ、約 70 人が参加。同社は三重県内にある津工場に辺野古埋立に使うケーソン製造を担当。当日不当にも署名の受け取りも拒否しまし

神奈川県警よ、高江から戻れ！8.5県警本部前行動に320人



2016年8月5日

神奈川県警察本部長 島根 悟 様

沖縄県東村・高江への機動隊派遣の中止等の申し入れ

8/5、「神奈川県警よ高江から戻れ！緊急抗議行動」が横浜港に面した県警本部庁舎前の歩道で展開された。主催はかながわアクション（「戦争準備に突き進む安倍政権に NO!」を）神奈川行動実行委員会）。戦争法案反対運動を契機に県内の市民運動が結集した連絡会で、街頭アクションを中心に様々な行動を呼びかけてきた。

高江では、人口 150 人の集落に全国から機動隊 500 人が動員され、市民の抵抗を暴力的に排除して、オスプレイ訓練用のヘリパッド建設が強行されている。県道であるにもかかわらず管理者の沖縄県に連絡することもなく検問で封鎖し、建設現場に通じる N1 ゲート周辺に金網を設置し、座込みテントを強制的に撤去した。国有林であるにもかかわらず営林署との事前協議もなく、立木を伐採した。金網と立木伐採については違法行為であることを認めて防衛大臣が謝罪したが、工事を止める気配はない。沖縄以外では考えられないような、無法行為がまかり通っている。沖縄を軍事植民地として見ているとしか考えられない。

この無法行為に神奈川県警も機動隊を派遣している。神奈川県民として見過ごすことはできない。県警に抗議の声を！ネットを中心にした緊急の呼びかけにもかかわらず、320 人の参加があった。

県警本部の巨大なビルの正面の歩道脇のスペースに 17 時過ぎから人が集まり始めた。横断幕を何枚も掲げ、プラカードを参加者に配布。開始時間の 18 時半になると、スペースが埋まってきた。行動開始宣言があり、県警への申し入れ書が読み上げられ、賛同団体が 43 団体にものぼったことが報告された。申し入れ書はかながわアクションの高梨晃嘉代表世話人から県警の職員に手渡された。

そのあと賛同団体からのリレートーク、シュプレヒコール、歌と熱く、賑やかに 1 時間程度抗議行動が展開された。



東京・警視庁だけでなく、福岡や大阪、千葉でも県警への抗議行動が展開されている。現地に機動隊を派遣しているのは、東京・千葉・神奈川・愛知・大阪・福岡。沖縄県公安委員会からの要請とされるが、実は警察庁から指示文書が出ている。派遣費（旅費、滞在費）は国庫から支出されている。安倍官邸が直接指揮しているということだ。

県民の安穏な生活を維持するための日頃の貴職のご尽力に感謝申し上げます。

さて、貴職もご承知の通り、参院選後に、政府は、沖縄県の辺野古新基地建設に向けた承認取り消しを違法として沖縄県を提訴する、さらに米軍キャンプシュアブの陸上部分での工事を再開する、さらに東村・高江地区でのヘリパッド建設に着手する、と公表しました。そして、その後、貴職は、政府の要請で機動隊員を現在、高江に派遣しております。

辺野古新基地建設ならびにオスプレイの訓練基地としてのヘリパッド建設についても、沖縄県民の「反対」、「いけない」との意思は、直近の参院選挙をはじめこれまでの県知事選・県選出国會議員選挙、県議選等で明確に示されていることは、貴職としてもご承知のことと存じます。

特に、ヘリパッド建設の予定地の高江では、これまでもオスプレイの低空飛行訓練により深刻な被害を住民の方々はうけており、訓練のたびごとに東村は沖縄防衛局に抗議を続けてきております。こうした状況下で、貴職の機動隊職員の高江への派遣は、沖縄県民、高江の住民意思を否定・愚弄する行為として、私たちは断じて容認することはできません。さらに貴職の派遣行為は、日本国憲法 92 条（地方自治の基本原則）、94 条（地方公共団体の権能）、95 条（特別法の住民投票）の精神に反し、他県の地方自治を侵害する行為にほかなりません。

また、高江の 150 人余の住民及びその支援者に対して神奈川県警をはじめ全国から派遣された 500 名を超える機動隊員が「殴る、引きずり下ろす」などの暴力的言動がメディアの多くで明らかにされています。なぜ県外の機動隊が他県の住民に暴力をふるってまで高江の住民が望む安穏な生活を破壊するヘリパッド建設を手助けする必要があるのか、他県の住民への暴力的言動は、機動隊の役割を大きく逸脱したものであるとして、私たちは係る行為を断じて容認することはできません。

私たちは、貴職に、次のことを強く求めます。

1. 派遣した機動隊員の現地・沖縄での暴力行為を中止させること。
2. 沖縄県の地方自治への介入を止め、即時に派遣した機動隊へ帰県の指示を出すこと。
3. 沖縄県東村への機動隊派遣を中止すること。

貴職をはじめ機動隊員の方々が、今後とも、憲法 99 条（憲法尊重擁護の義務）をはじめ憲法の精神に基づいて行動されますよう、併せて強く申し入れます。

以上
4